

## 【事業実績】

### 先進事例調査の一例



東日本大震災津波伝承館（いわて TSUNAMI メモリアル）」調査風景

2019/11/28 岩手県・宮城県の津波被災地で活動を行う震災伝承施設を調査。各館のビジョン・使命、展示手法等について、担当者にヒアリングを行った。



大阪市立自然史博物館 調査風景

2019/12/6 大阪市立自然史博物館を拠点とするサークル「なにわホネホネ団」を訪ね、博物館と市民との積極的協働についてヒアリングを行った。

### スタディツアーの一例



スタディツアー「震災と動物」

2019/8/5 南相馬市・半杭牧場

東日本大震災に伴う東京電力福島第一原子力発電所により家畜を残して避難せざるをえなかった牧場等を見学し、人間と動物の関わり、「いのち」について考えるツアーとなった。



スタディツアー「小さな博物館がつなぐ大きな奥会津」

2019/11/9 只見町・ふるさと館田子倉

豊かな自然に根差した奥会津の暮らしを伝える小さなミュージアムをめぐり、電源開発の歴史とコミュニティ再生について学ぶツアーとなった。

## オープンディスカッションの一例



オープンディスカッション「あなたの私の博物館」

2019/10/27 福島県立博物館

年齢・性別・国籍・信条に関わらずあらゆる人に開かれた場としてのミュージアムについて、ソーシャルインクルージョンの専門家を招きディスカッションを行った。



オープンディスカッション「災害とミュージアム」

2019/12/26 仙台市・せんだい 3.11 メモリアル交流館

被災地で震災の経験と教訓を伝える活動に携わる者が集い、ビジョンとミッションを共有し、広域にまたがる連携の重要性についてディスカッションを行った。

## フォーラム



フォーラム「活かす・生きるミュージアム」

2020/1/18 福島県立博物館

地域住民、利用者と特徴ある連携・協働を実践しているミュージアムの事例を学び、地域の文化創造の拠点としてミュージアムのもつ可能性について対話がなされた。



フォーラム「いのちとくらしとミュージアム 記憶と人間の方舟として」

2020/2/14 福島県立博物館

東日本大震災以降、「いのち」と「くらし」に向き合う活動を続けてきた仙台メディアテークと福島県立博物館の両館長の対談により、人の営みの記憶を集積し未来に運ぶミュージアムの役割についてお話いただいた。

## 成果報告展



成果報告展 京都・ICOM

2019/9/2～9/4 第25回ICOM京都大会2019において、オープンディスカッション・スタディツアー「動物と震災」の活動内容を中心に、東日本大震災後の福島現状と課題の発信を行った。



成果報告展 福島県立博物館

2020/1/11～3/15 2019年度に行った7つのプログラムの概要と参加者の声、編集した映像等を展示。9年目の3月11日を迎えるにあたり、多くの方と「いのち」と「暮らし」を考える場となった。

### 参加者の声(抜粋)

- ・普段聞くことのできない現場の人のお話や、個人では行くことのできない場所に行けたのが貴重な経験になりました。予期せぬ事態が起きたとき、命をどう向き合い、どのように行動するのか？自分だったらどうするのか？想像してもしたりない。頭がいっぱいでまとまりません。(福島市、37歳)
- ・福島だけの問題ではないということ、引き続き自分がいる場所から考えねばと思いました。ありがとうございました。(東京都、40歳代)
- ・東北の復興はまだまだ続くのでしょうか。「忘れない」という事をミュージアムが伝えていなければならぬ重要性を感じました。(宮城県仙台市、40歳代)
- ・地域の連携が重要だと感じた。地域の方々の自分の住んでいる所にプライドを持っている事が大事と感じた。(会津若松市、60歳代)

## ライフミュージアムの成果 若松 県立博物館で報告展



ライフミュージアムネットワークの活動成果を  
紹介しているパネル展示

震災と原発事故を受け、2011年（平成23）年に設立されたライフミュージアムネットワークの成果報告展「福島から、いのちと『ふらじ』を、考える」は、11日、会津若松市の県立博物館エントランスホールで始まった。3月15日まで、開催無料。

同ネットワークは、震災と原発事故から学んだ「いのち」と「ふらじ」に向け、ネットワークの大切さを、ミュージアム活動を基盤に多くの人と共有し、未来へ伝えようと活動する。本年度は県内各地でツアーやディスカッションを実施、各地の博物館や美術館、資料館、

記念館などの関係者、NPO法人など意見交換を行ってきた。

成果報告展では、二本松市や南相馬市、大熊町、奥会津地方などで実施したオープンディスカッションやスタディツアーの様子を写真や参加者の声などで紹介し、当日の様子を撮影した映像も流している。

2020年1月12日（月）福島民友

## 震災体験「記憶残す」 若松 県立博物館長ら対談



県内外のNPOや大学、文化施設などの各団体で構成するライフミュージアムネットワーク実行委員会によるフォーラムは14日、会津若松市の県立博物館で開かれ、同実行委員長の赤坂憲雄（あしかの けんすけ）と、福島県立博物館長と若松市で開かれたメディアテーク（仙台市）館長の齋田清一（さいだ しみず）さんが対談した。

フォーラムは「記憶と人間の方舟として」と題して開かれた。赤坂館長は震災の体験を経てミュージアムがどうあるべきかを考えてきた経緯を話し、「見聞された空間のように感じるかもしれないが、学芸員が被災地に足を運んで文化財レスキューなどの活動を展開、人々の記憶を残すことに取り組んできた」と語った。

また「人々の記憶など見えないものを積んで方舟のように進むのがミュージアムの役割かも知れない。垣根なく、さまざまな人が広場のように集まれる存在になればいい」と述べた。

「アート」については齋田さんが「非常時は活動を停止し、安定時に再開するようだと、ただの飾り物になってしまう。数値化された目標のようなものがなくても熱中できるのがアートだ」と語った。

対談する赤坂館長（左）と齋田さん

2020年2月18日（火）福島民友